



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

国際ロータリー第2800地区 1959年6月9日創立

鶴岡ロータリークラブ

平成24年2月28日(火)

第2577回 例会

(本年度第30回)

例会場 東京第一ホテル鶴岡
(鶴岡市錦町 2-10)

例会日 毎週火曜日
(12:30~13:30)

2011-2012年度 国際ロータリー会長…カルヤン・バネルジー

クラブホームページアドレス◎<http://www.tsuruokarc.org/>

メールアドレス◎tsuruoka08@rid2800.jp

本日(3/6)のメインプログラム

ゲストスピーチ
庄内支庁振興普及担当 笠原 裕 氏
「魚貝類の生態とその繁殖保護」

次週(3/13)のメインプログラム

移動例会
慶応義塾大学先端生命科学研究所訪問

会長挨拶

青柳孝治

3/27の移動例会の案内と 参加申し込みの連絡

2月の最終例会日です。3月13日は移動例会で、昨年から2年越しの予定であった慶応義塾大学先端生命科学研究所の視察と富田先生のお話を聞く事になっております。昨日現在で13名の申込みがありましたが、メ切は本日となっております。多くの会員の参加をお願いします。

2001年に研究所が鶴岡に創設されて以来12年になりました。研究の内容やこれまでの成果などについては、13日に説明があるものと思われます。今や世界から注目される研究所となっています。また、県立中央高校や南高の生徒も「研究助手」として働いており、数々の会社も立ち上がっており、山形県や鶴岡市の名前が世界に知れ渡ってきたところであります。

この研究所が鶴岡に創設された経緯については、今まであまり詳細に説明や報道はされた事はありませんでした。これは、庄内地方に四年制大学を創設し、地域の活性化を図りたいとの願望で、慶応義塾大学にも働きかけたりしてきたところで、東北公益文化大学として大学と大学院が設置される事になり、鶴岡と酒田が強烈な綱引きを行った結果、酒田に四年制大学を、鶴岡に大学院を設立されることになったものです。大学と大学院では、生徒数に大きな差があること、酒田と鶴岡は同規模の市であり、不公平感が大きく、資金面の関係においても均衡が測れないことから、皆様方もご承知の通り鶴岡市民

からは批判を浴びせられてきたのですが、当時大学設立にお世話になった慶応大学に、高橋知事や富塚市長が日参りし研究所設立をお願いし、全国に負けない強力な誘致活動を進めた結果、現在の研究所が設立されたものであります。

現在も県や市で負担している研究費や施設費の提供についても予算の時期になりますと一部批判もありますが、現在の研究所の状況からしても、メタボローム研究の一大拠点として世界に知られる鶴岡になりつつあることからして当然のことと思います。富田先生の目標通りに進んでほしいと思います。

幹事報告

木村 節

○地区GSE担当 恩田次郎

第2回 第2ブロック GSE受入会のご案内

日時：3月16日(金) 午後12:00~13:30

場所：東京第一ホテル鶴岡 9F 締切3/8

BCP(事業継続計画)対策について

牧 衛 氏

本日は、震災後特に注目されている製造業のBCPについてどんなことをやっているか、お話ししたいと思います。

当社も東日本大震災の被害があったところに工場があり、生産がとまりました。その他にも東北地方には多くの工場があります。そこから部品を供給できなくなると、いろいろなお客様も製品が作れなくなり、日本全体の製造業が止まってしまう



出席報告

会員数	41名
出席	33名
出席率	80.49%
前々回確定出席率	70.73%

■RI会長 カルヤン・バネルジー ■地区ガバナー 細谷 伸夫

■会長/青柳孝治 ■副会長/嶺岸禮三 ■幹事/木村 節 ■会長エレクト/阿部純次
■会報委員会/阿蘇司朗・阿部純次・嶺岸禮三

事務局：鶴岡市馬場町11-63 鶴岡産業会館3階 TEL (0235) 28-3375 FAX (0235) 28-3376

ます。さらに震災からようやく復旧したところに、今度はタイの洪水です。

最近の工場見学に訪れる特に海外からのお客さんの関心事は、この地域で地震は起きますか？津波の心配はありますか？原子力発電所は近くにありますか？最後に、BCPはありますか？というように災害対策のBCPが最重要課題になっています。BCPとは事業継続計画です。企業が緊急事態に遭遇したときに、被害を最小限にとどめ早期復旧を可能とし、事業を継続する為の手段を取り決めておく計画です。

まずは、地震対策について話します。当社の関連企業のなかで大きな被害がありました。津波はなかったのですが、震度6強の地震により工場が大きく被災し、操業再開まで約6ヶ月かかりました。建物の概観は被害が無いようにみえますが、中に入ると状況はひどく、復旧は無理かと思うくらいでした。今回の工場復旧に当たっては、グループ関連会社はもちろんですが、自動車工業会、設備メーカーなどから多くの支援を頂き、ピーク時には1日に2500人の人が復旧に携わりました。おかげさまで大幅に短縮して復旧できました。

新しいBCP方針は従来のBCP方針に加え、お客様とのリスク情報共有を追加しました。

工場の耐震性を強化し、復旧を短期間で行う。復旧までの間は、代替工場から製品出荷、在庫対応を行い、大震災があっても製品供給を途絶えなくするものです。今までも、阪神大震災、新潟中越地震の教訓をもとに耐震対策を行っていました。今回の東日本大震災では、今までの対策により人の安全は確保できました。けが人が一人も出ず避難できたことは、復旧の大きな原動力です。一方それでも内部では大きな被害があり、今まで以上の対策が必要である事がわかりました。

当社の対策状況はまずは庄内地区の地震リスクですが、近くに活断層が存在しています。最大予想震度6強で発生確率30年以内0～6%のようで、日本国内は結局どこでも起こりえる、と言うことでしょう。幸い津波に関しては高館山があることや、海から9km離れていることから、影響は無いと思っています。さらに赤川を津波が遡上してきて堤防が決壊しても、工場は1.5mの杭で囲われており浸水のリスクも低いと判断しています。さらに工場はもともと振動対策で岩盤まで杭を打っておりその上に建設していますので液状化に対しても対策済みです。

さて地震対策ですが、免震構造、制震構造、耐震構造を使い分けて実施しています。制震補強としては、一部建屋で実施しました。今まで2階3階で揺れが大きかったのですが、今回の地震で効果を確認できました。制震補強によりほとんど1階と同じ揺れに収まりました。次に塩ビダクトの破損対策です

が、間にフレキシブルダクトを入れて揺れを吸収することにしました。

薬品タンクも同様にタンクの肉厚補強と、固定を行いタンクは保護されましたが、配管が根元から折れて、排出用ポンプが水没。使い物にならなくなります。配管の取り出し口はむしろ固定せず、揺れを吸収する配管に変更しました。コンピュータのサーバの転倒防止は免震台に固定して揺れを防ぎます。

大震災のあとは、電力不足が起きました。当時は電力制限の話があり、15%の削減が義務付けられました。当社でもこの電力不足に対応するため、発電機の確保に奔走しました。ひとつはガスエンジンの大容量発電機をなんとか調達し、ぎりぎり8月末に稼動しました。たぶん一般家庭5千～1万軒分の電力を賄えます。この発電機稼動までの間は少しでも緩和できるようレンタル発電機を調達しました。あの当時は、発電機の奪い合いで、通常の費用の倍の値段でなんとか調達しました。

続いてソフト面での対策です。地震発生時の行動は決められており、震度6以上で対策本部が立ち上がります。年に1回防災訓練で地震を想定した避難訓練を実施しております。最近はなるべく実態に沿うように訓練すべく、停電を想定し構内を真っ暗にして懐中電灯で避難なども行っています。訓練で怪我をしないか、いつも冷や汗ものです。さらに防災用品を拡充しています。災害救助セット、懐中電灯、構内の連絡用にトランシーバー、比較的つながりやすいPHS電話、後は救助用にハンディキャンバーやイーバックチェアです。後は非常用食料と飲料水。全員分まではいきませんが、必要な人員の3日分を準備しています。賞味期限5年のようですが、5年後にどうすべきか…。

以上、大震災を受けてBCP対策を紹介させて頂きました。

委員会報告

◆出席委員会

◎メイクアップされた方々

阿部純次・牧 衛・丸山隆志・西川富美子

スマイル 😊

佐藤友行君 先日の例会のゲスト、鶴岡青年会議所理事長のご活躍を祈念致します。理事長の先輩としてプロフィールをご紹介しました。

丸山隆志君 加藤一行さん、再入会ありがとうございました。

藤川享胤君 牧さん、スピーチを聞けずに先にかえります。おわびのスマイルをします。

青柳孝治君 牧さん、今日はありがとうございました。すばらしい防災対策に感動しました。